

学校教育講座講座 中西 陽 特任准教授

自閉スペクトラム症の子どもの抑うつ予防 ～ソーシャルスキルに着目して～



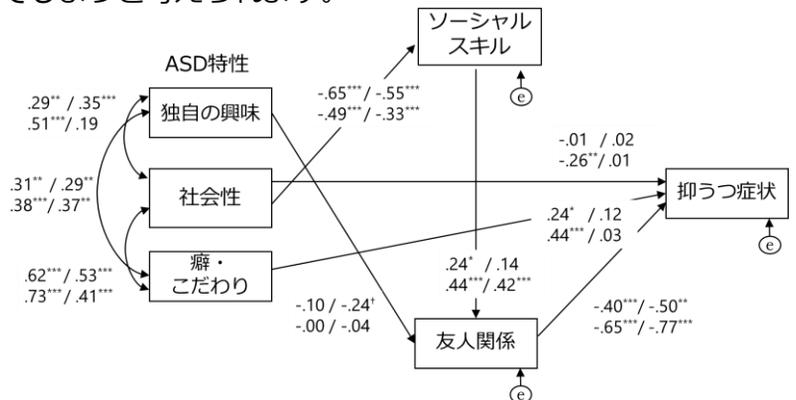
キーワード 自閉スペクトラム症/ 抑うつ/ ソーシャルスキル/ 予防/

どのような研究をなぜ行っているか

自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder: ASD）は、社会的コミュニケーションの困難やこだわりの強さなどを主な特徴とする発達障害です。このような特性を示す子どもたちは、抑うつや不安などのメンタルヘルス（精神的な健康）の問題を示したりすることがあります。このような問題は「二次的問題」や「二次障害」と言われ、これらを予防するための支援が求められています。

私の研究では、予防的要因の一つとして「ソーシャルスキル」に着目しています。「ソーシャルスキル」とは、他者との関係を上手くやっていくために必要な行動的技術のことです。ASDの子どもたちは社会的認知の特異性から、ソーシャルスキルが身についていないことがあり、それによって他者との関係がうまくいかず、二次障害に陥ってしまうと考えられます。

しかし、このような理論的モデルを実証的に検討した研究はこれまでになかったため、私の研究ではまず、ASDの予防的支援の構築に向けた基礎研究として、上記のモデルの検討を一般の子どもたちを対象にしたアナログ研究から行いました（右図）。その結果、小学生男子と中学生男子・女子において、ASD特性における社会性の問題がソーシャルスキルの低さ、そして友人関係の低さを媒介して抑うつ症状を強めていることが実証されました。



注1 数値は標準化係数, 上段は小学生(男子/女子), 下段は中学生(男子/女子)
注2 * $p < .10$, ** $p < .05$, *** $p < .01$, **** $p < .001$

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

上記の研究は、適切な方法でASDの子どもたちのソーシャルスキルを高めることができれば、友人関係の問題が改善するとともに、抑うつ症状の悪化を予防することができる可能性を示しました。これはASDの子どもたちを対象としたソーシャルスキル支援の有効性に関する理論的基盤を提案するものであり、今後の介入実践における科学的な根拠と言えます。

したがって、今後はASDの子どもたちに学習が必要とされるソーシャルスキルの内容や具体的な介入方法について検討を深めるとともに、ソーシャルスキル支援を実際に行っていくことで、二次的に生じる抑うつ症状の悪化を防ぐことができるのかを検討していきたいと考えています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

1. 中西陽・石川信一・神尾陽子（2016）「自閉スペクトラム症の特性の高い中学生に対する通常学級での社会的スキル訓練の効果」, 教育心理学研究, 64, 544-554.
2. 中西陽・石川信一（2018）「自閉スペクトラム症児のための社会的スキル尺度親評定版の作成」, 心理臨床学研究, 36, 15-23.
3. 中西陽・石川信一（2021）「小中学生の自閉症の特性が抑うつ症状に及ぼす影響—ソーシャルスキルと友人関係の媒介効果の検討—」, 認知行動療法研究, 47, 11-21.